

函館国立大学への期待

— 幕末の箱館に総合大学があった —

副会長 田 沼 修 二

函館が二十一世紀に向けて進めている最大のプロジェクトの一つが「函館公立大学（仮称）設立」と聞く。かねて函館の高等教育機関の不備を嘆いてきた我々にとって何よりの朗報である。

NHK教育テレビで十月から十二月迄「人間大学（知の自由人たち）」が、今最も油の乗り切っている網走出身の文化人類学者の山口昌男さんによって放送され、その第一回に五稜郭を築いた武田斐三郎の業績が取り上げられていた。

大洲藩士（愛媛）の武田斐三郎（あやさぶろう）は緒方洪庵の塾塾で塾頭を務めた秀才で、安政元年に幕府官僚に従って箱館奉行所の開設に当たった他、箱館での活躍には目を見張るものがあった。五稜郭築城と並ぶ斐三郎の業績として、山口さんは安政三年、奉行所の中に開校した「諸術調所（しよじゅつしらべいじょ）」を極めて高く評価し、日本で最も早く設立された「洋学の総合大学」であったと見

る。幕府はその一年前、江戸に蘭書翻訳のために洋学所を設けたが、これに教育機能を加えて「蕃書調所」が開校されるのは、箱館の「諸術調所」より一年遅れの安政四年のことであった。

函館で幕府の直臣に取り立てられ「諸術調所」の学頭に任命された斐三郎は、学生には幕臣から足軽や水夫まで身分を問わず、学力で席次を決め、語学と測量術、砲術、航海術などを教授した。

斐三郎の学力を慕って「諸術調所」には、後に明治政府の工部卿になる山尾庸三や鉄道庁長官の井上勝、近代郵便制度を確立した前島密などの才幹が全国から集まって勉学に励んだ。新島襄は「諸術調所」に入門したが、斐三郎の江戸転出のため直接学ぶ機会がなく、やがてアメリカに密出国する。

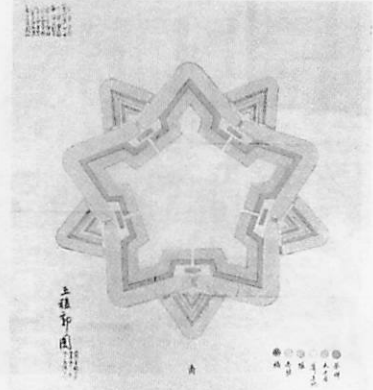
三十八歳の武田斐三郎は、その実績を買われて、十年間を過ごした箱館を去り江戸で幕府開成所の兵学教授となる。開

成所は蕃書調所の後裔で、維新後に東京帝国大学と名を改め、日本の学術文化の中核として君臨する。

それに反し、箱館の「諸術調所」は大黒柱を失い、当然ながら勢いが衰え幕末までは何とか存続したようだが、維新後遂に再建されることはなかった。箱館に生まれた日本最初の「洋学の総合大学」は斐三郎の江戸への転出とともに一場の夢と

なってしまうのである。戊辰戦争の最期の戦場であった箱館と新政府の首都となった東京とでは、その後に辿った百五十年の歴史は大きく異なるが、日本で初めて「洋学の総合大学」が開かれた箱館の歴史の栄光を偲ぶ時、遅きに失したとしても「函館大学の設立」に大きな期待を寄せるものである。

そして、二十一世紀中に函館大学が、研究と教育に優れた業績を積み重ねて、「諸術調所」に託した武田斐三郎の夢を実現することを期待して行きたい。



武田氏の五稜郭設計図画

函館市役所便り

夏月号では函館公立大学の設立、函館駅再開発、市立病院の移転新築を中心に報告しましたが今回は「函館市芸術ホール」と「サハリン大陸棚石油・天然ガス開発プロジェクト支援基地」について報告します。

『函館市芸術ホール』は約四十億円を投じて音楽専用の舞台を持つなど質の高い機能を備えて平成十年五月に新しくオープンします。場所は五稜郭（旧函館跡地）で北洋資料館と道立美術館に隣接しています。規模は地下二階、地上四階建ての時は八百四十二席になります。オープンまでには市民から募集した愛称で呼ばれていることと思います。

次に『サハリン大陸棚石油・天然ガス開発プロジェクト支援基地』ですが、サハリンの大陸棚では国際的なプロジェクトでエネルギー開発が進められています。

開発期間は約四十年で一九九九年から石油が出荷されるといわれておりますが、この間、膨大な人・物・情報の流れが見込まれるため、ユジノサハリンスクとの国際定期航空路や港湾、医療機関等の機能を生かして函館が支援基地の役割を担い地域経済の活性化や国際化を推進しようというものです。

# 嗚呼！たくぎん

会長 室谷邦雄

三年後に創業百年を迎えたと聞いていた「たくぎん」（北海道拓殖銀行の略称拓銀、北拓とも云われた）が、突然幕を閉じることになった。

「たくぎん」は明治三十三年に設立され、債券を発行して農地を担保とする長期貸付を行なうのが主要業務であった。

大正初期には北海道、樺太の主力銀行となり、第二次大戦中の銀行統合では北海道以北に本店を持つ唯一の銀行として君臨してきた。昭和三十年には地方銀行から都市銀行に転換し、本州に次々支店を増設して今日に至ったのである。

この間、幾度も苦難の時期があり、その都度切抜けてきたが、今回のハードルは超えることが出来なかったようだ。本当に残念なことであった。しかし幕切れはどうあろうとも「たくぎん」が、多年北海道の産業界や経済界に貢献した功績を忘れてはならない。

私は昭和十三年小樽高商を卒業して日銀小樽支店に入行。二十年から二十二年まで札幌支店に勤務したが、「こ」で「たくぎん」とは生涯忘れられない深い関わりをもった。それは昭和二十年八月八日対日宣戦布告をしたソ連が樺太国境を超えて進攻を始めたため、軍事費や内地への

引揚者の預金引出し等に備えて、拓銀豊原支店に事務所と金庫を借りていた日銀豊原事務所の寄託券を急遽補充する必要が生じた。この寄託券は拓銀の口座を通して、樺太内の各金融機関の営業資金と

して使われるもので、現地から矢のような催促が来る。日銀札幌支店は終戦前夜三回に亘って現金を輸送したが、私は第二回の現金輸送主任を命じられた。八月

十七日、五人の拓銀行員と共にリュックに現金を詰め、満員列車を乗り継ぎ、海防艦の世話になって十九日に豊原に着いて現金を引渡し、二十一日無事帰任した。拓銀の五人は一日遅れて乗船、留萌沖でソ連の潜水艦から魚雷攻撃を受ける羽目になったが、辛い難を免れて帰任された。本

当に危うい綱渡りであった。あの混乱の時期に樺太で果たした「たくぎん」の功績を忘れることは出来ない。

これから色々な対策が講じられることになるが、預金者保護は勿論のこと「たくぎん」から融資を受けていた企業が円滑に事業を継続してゆけるよう、また「たくぎん」に在籍している多くの知人や学校の後輩達が、逆風に負けることなく奮起されることを願って止まない。

# ブルガリアにサクラを

顧問 相馬正樹

二十年前に東海大学の海洋学部に四人の研究者がブルガリアの科学アカデミーから派遣され、私が彼等の指導にあたりました。その後ヨーロッパの学会に出席する度に、寄り道をしてバルナの海洋研究所を訪ねて交流を続けてきました。

先年、首府のソフィアに東海大学同窓会支部が作られ、発会式には文部大臣からソフィア大学総長まで出席するという盛会でした。その席で私が日本とブルガリアの親善の記念にサクラの木を寄贈しましょうと口を滑らせてしまいました。

ところが、一昨年になって知事と市長が会いたがっているから立ち寄ってほし

いこの手紙が届きました。フランスへの道すがらバルナに立ち寄り、知事市長に会ったら案の定サクラの話でした。既にサクラの担当者として五人の美人の植物学者が任命されており、サクラ並木の予定地も視察して、記者会見までさせられ後に引けなくなっていました。

帰国して早速実行に移そうとしますと苗木は一本千円程度で、百本ぐらいは自力でやるとしても、航空運賃、植物検疫や消毒、梱包費を合わせると総額五十万円にもなり、個人の手に余ることが解りました。そこで心ならずも道南会の皆様のご好意にすがる羽目になりましたが、お蔭さまで昨年五十本の苗木を届けることができました。百本の苗木のうち根が着かなかったのは三本だけという好成績でした。

第二次計画として更に五十本を贈り、バルナの海浜公園にサクラ並木を作り、「黒海の真珠」と言われる風光明媚なバルナ市に、錦上サクラの花を添える構想を進めています。実現の暁には大挙してバルナ市を訪ねて植樹に参加し、その後は、毎年満開の桜のもとで、花見の宴の開き方についての指導に出掛けるといふ楽しい企画も用意されています。

只今、第一次計画の募金中で、なるべく多くの方の御賛同を得て、東欧美人との国際交流に参加されますよう重ねてお願い申し上げます。



バルナの街角の朝市

# 昭和八年 ぼくは宝の六年生

副会長 能 味 寿 哉

昭和八年春、宝小学校六年生に進級した私は、前途に何か希望を感じながら毎日充実した生活を送っていた。志望校も父が古い卒業生である函館商業に早くから決めていた。

家は豊川町海産商通りの一角にあつて父は祖父から引継いだ俗称「番屋」の仕事をしていて。大将と呼ばれ海陸労務作業を請け負う仲仕を十二、三人を取り仕切っていた。私は子供心に、荒い労働に明け暮れる人達が、ホッと息抜きをする時間にあらず茶飲み話の中から、これから大人になろうとする私にとって、いい人生勉強をさせてもらった。詰まるところは、真面目が一番、カネとオンナに気を付けてらということだったろうか。

さて、宝小学校は一年後の三月二十一日の大火で消え失せることになるが、古びた広い体操場を走り回ったり、肋木にぶら下がって早く背が伸びるよう務めたりしたあの頃が懐かしい。

函館の海産商はまだ賑わっていたが、時局は暗い方に向かっていた。日本が国際連盟を脱退して世界から孤立し、非常時の声が高まり出した。京大の滝川幸辰教授の追放で学生が騒いだり、「蟹工船」を書いた小林多喜二が拷問死させられるといった悲劇が相次ぐ一方、神兵隊によ

るクーデター計画が未然に阻止されるといふ軍部、特高の活動が顕著になる時代が始まっていた。函館では電気料金を巡る「電気争議」が起き、市と水力電気会社の長引く抗争は、市民を落ちつかせなくさせていた。



昭和初期の函館浅橋望遠

帳場を預かる父は新聞を丹念に読んで、夜の食卓で杞憂を洩らすこともあつたが、子供たちには縁の遠いことで「父さん、また活動写真につれていって！」とせがむほうが関心事であつた。年に何回か父につられて行く活動写真館は小学校に近い綿輝館と松竹座であつた。あの年、洋画では「キングコング」が期待通りのスリルを味あわせてくれたし、邦画では「月

形半平太」の片岡千恵蔵と共演の山田五十鈴が格好よく大評判だつた。函館出身の売れっ子作家、林不忘の原作をヒントに得たという「丹下左膳」は、日活の伊藤大輔の脚色、監督で隻眼隻手のニヒルな一匹狼を大河内伝次郎が素晴らしい演技で見せ、吊り上がった眼の光りがファンを魅了し、訛りのある伝次郎のセリフは「シェイ(姓)は丹下、名はシャゼン(左膳)」としっかりその気になつて真似をする仲間も多かつた。

実は、この活動写真がはねた後、山背の風に首をすくめながら縄ノレンをくぐる「北一食堂」が楽しみであつた。料理の良いういが立ち込めて子供たちには、パラダイスに思えた。いつも注文する寄せ鍋には、大きな土鍋に新鮮な魚介が一杯入っていた。盛り切りのご飯は真っ白でアツアツだつた。父は三人の子供を前に旨そうに熱燗を口に含む。妹が母の真似をしてお酌をする。徳利が一本二本と並んでいく。私と弟はエビやカニの取り合いをして、父から追加注文をするから喧嘩などしないでドンドンたべろといわれる。北一の親父さんは、いつも笑顔でそんな様子を見守っていた。

父が死んで三十四年経つた。歳月のたつことの早さが身に沁みる齢となり唯驚くばかりである。木枯らしが、やがて吹雪となる函館の昔話である。



遺愛115周年記念同窓会

## 遺愛創立百十五年記念同窓会

島 田 瑞 子

創立百十五年を記念して遺愛学院の大同窓会が九月十九日夜、函館国際ホテルで開かれました。出席した卒業生や職員は九十歳から二十三歳まで六百五十余名、国内だけでなく米国やタイなどからも出席して思い出を語り合いました。

同窓会は賛美歌合唱で始まり、食前のお祈りをして祝宴に入り、和やかな雰囲気会場一杯に広がり、在校生のハンドベルや吹奏楽も披露されました。会場では昔の女学生に戻って旧友との再会を喜び合いました。この日八十歳以上の先輩二十二人に二十歳台の卒業生がバラの花束を贈り、最期に校歌を全員で合唱、五年後の百二十周年の同窓会での再会を誓い合つて、笑顔で散会しました。

# 道南会行事報告

平成九年後半の行事の報告です。  
 ☆「サッポロビール千葉工場見学」

八月二日(土) 午後二時三十分  
 三十名が参加、今回は工場のラインがフル稼働してをり、瓶詰や缶詰に詰められたビールの流れは壮観であった。  
 見学後出来たての生ビールで乾杯。

☆「鬼怒川温泉旅行会」

八月十九日(月)二十日(火)  
 鬼怒川在住の工藤昭吾会員のお世話で二十五名の会員が参加。十九日午後有志の川下りの後、温泉で汗を流してから宴会で盛り上がる。その勢いで工藤会員の経営する「シャレード」に向かい、早坂茂三会員夫妻を囲んで懇親とカラオケでノドを競い合った。二十日はマイクロバスで湯元、湯の湖、中禅寺湖、華厳の滝、東照宮などを見学して夕刻帰京した。



旅行会、男体山をバックに

☆「道南会夏季懇親会」

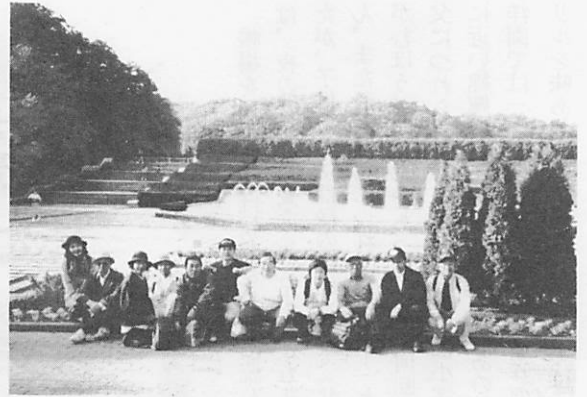
八月三十日(土) 午後〇時三十分  
 銀座「フアゼンダ」で開催。七十名が出席、挨拶や報告、乾杯のあと懇談とカラオケが続いて三時半散会。

☆「手織座観劇会」

十月四日(土) 十一日(土) 午後二時  
 室谷会長が後援している、宝生あやこさん主演の手織座公演「柘落し」、山本周五郎原作の江戸人情劇を二回にわかれて十五名の会員が観賞した。

☆「森林公園ハイキング」

十一月八日(土) 午前十一時、十三名の会員が、広い公園内を散策して汗ばんだころビールで乾杯、持参の弁当を交換して楽み二時三十分散会。



森林公園ハイキング

☆「築地市場視察」

十二月三十日(土) 午前九時  
 歳末の買出しに賑わう築地市場を視察。二十二名の会員はタコ、イカ、鮭、筋子数の子など、郷土持参のお正月食品の売れ行きに関心を集めていた。

道南会行事予定(十年度前半)

◇「道南会新年総会」

一月二十九日(木) 午後六時

日本工業倶楽部

◇「梅見の会」

二月下旬―三月上旬 場所選定中

◇「観桜会」

三月下旬―四月上旬

亀戸「香取神社」松前桜ほか

◇「皇居東御苑散策」(検討中)

五月中旬

◇「NHK大河ドラマスタジオ見学」

六月中旬

◇「サッポロビール見学会」

七月下旬

◇「夏休み旅行会」(検討中)

八月中旬

◇「道南会夏季懇親会」会場選定中

八月下旬

## 道南会役員の新任

八月三十日の夏季懇親会で、会長から新しい顧問と幹事が委嘱されました。

顧問 富田朝彦、二上達也、松田昇  
 幹事 藤井利夫、阿部正身、古井勝利、三村寿雄

## 同窓会便り

◆白楊ヶ丘(函中・中部)同窓会総会

十月八日(水) 午後五時

アルカディア市ヶ谷 (百六十名)

◆函館西高校同窓会東京支部総会

十月十八日(午後一時)

エビスガーデンプレイス

フェストブロイ (二百名)

◆函館工業同窓会

十一月八日(土) 午後一時

芝弥生会館 (百二十名)

◆遺愛同窓会 クリスマス祝会

十二月三日(水) 午前十時三十分

青学会館 (百七十名)

◆幸小学校同窓会

八月三十日(土) 午後二時

大神宮会館 (四十名)

◆東京弥生会

十月二十四日(金)

日本橋三越特別食堂 (三十五名)

◆東京青柳会

十一月七日(金) 午後六時

霞友会館 (五十名)

☆東京松前会

十一月二十三日(日) 午後六時

赤坂東急ホテル (百二十名)